



特59

937

091987-001-4

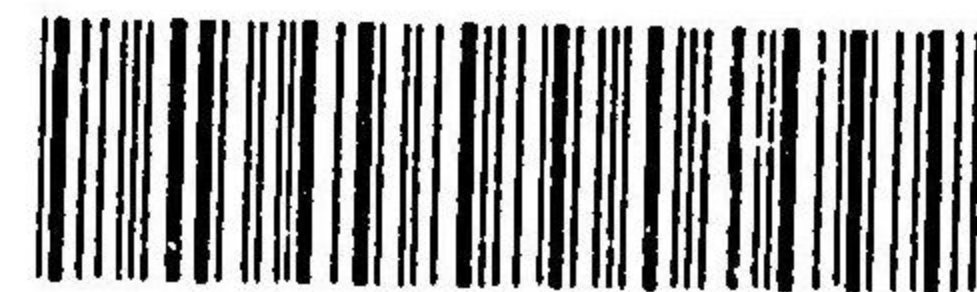
特59-937

[繪本]

宮沢 金太郎 / 刊

M19

DBP-0626



源治十一年

抑我朝武名をあらはし  
 鎌倉治代は和田左  
 衛門尉義盛と  
 あり  
 強勇  
 して將軍  
 頼朝公  
 と補佐  
 て義旗を揚平氏と  
 亡し鎌倉將軍三代の忠臣  
 ありといへども北条と権

月七



特59  
937

明治十九年六月三日

抑我朝武名をあらはし  
鎌倉治術は和田左  
衛門尉義盛  
あり  
強勇  
して將軍  
頼朝公  
を補佐  
て義旗を揚平氏と  
亡し鎌倉將軍三代の忠臣  
ありといへとも北条と権

月七







うしろまゝ北條家  
と亡さんと隠  
謀と企てて一  
味と語ひ安  
念といふ僧と  
鎌倉お登せ諸士と  
同意せしめ翌年正  
月和田平太胤長同意  
其外御家人  
のうち一味  
もやうら  
なき



バウ  
安念  
親  
平  
鎌倉へ招きけるは由利  
八郎變心して子細と千  
葉介成胤は注進して成  
胤安念を生捕て連判状  
と取り北条ふ告ぐ義時  
急下知し由利八郎と

泉太郎



和田義成  
 古郡保忠  
 土屋義清  
 族胤長  
 在りて大勢あり  
 實朝公義盛が誠忠を察し義直兄弟の者と義盛



北条義時  
 尼公  
 大正徳元  
 日討手として工藤祐友三百余人平ひ  
 討手は向ふ親平十四人の郎徒を大ふ  
 男戦するは討手散ぐは敗軍を  
 祐友の親平は討てて死せその戦と  
 うは近国の大勢ありて和  
 田

草上

朝比奈



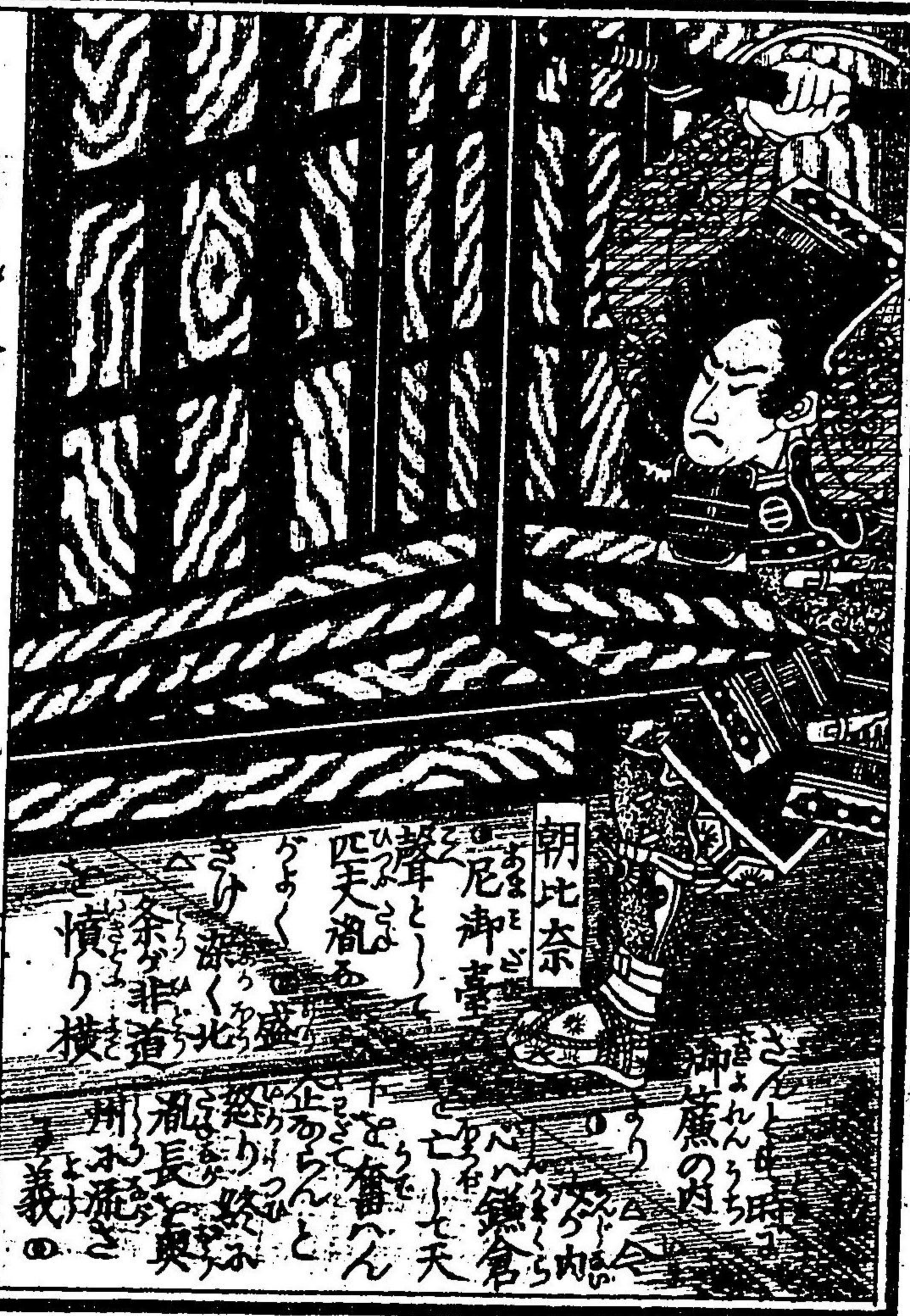
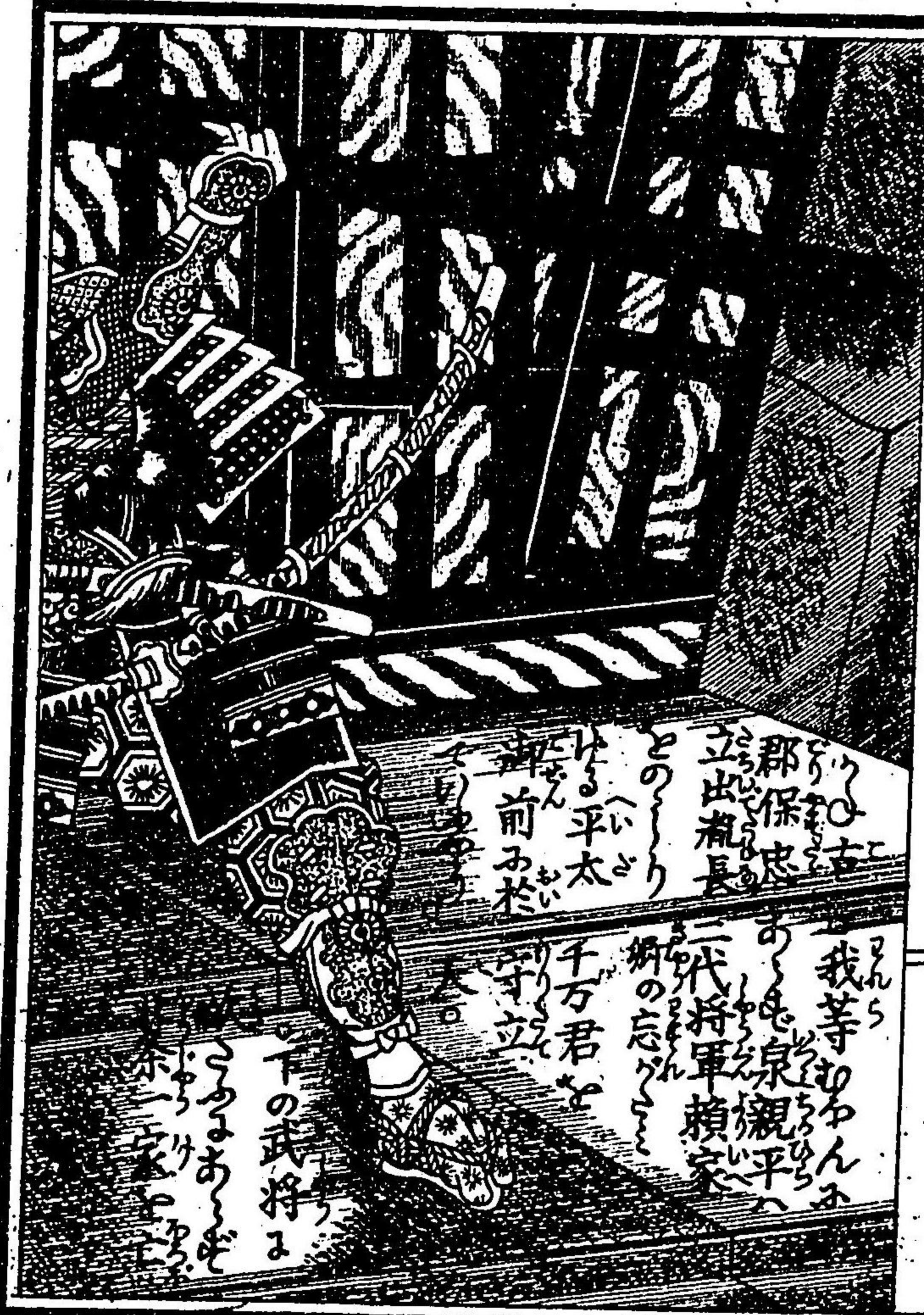
和田義盛

月七



和田義時  
和ある三浦一族  
の面前に  
義盛の  
義盛の  
義盛の

五





朝比奈



山時兼三浦一族と語りひ北条  
と亡さんとを企てける  
將軍是。

古郡新吉門

北条の館  
府を破りて幕  
入保忠  
西の門  
北条時房  
等と戦  
ひ義清  
北の

朝比奈



○とまゝに  
きぬひし御方へ遊  
近國の大小名と  
語りひけよ和田  
ハ五月  
三日は軍と  
出も先陣ハ朝  
比奈義秀方  
るり後陣ハ  
和田左衛門の  
尉嫡子常盛次男朝盛  
等都合五千人あり義清。

門ふむり  
波多  
野忠  
水と勇戦  
潮田義季  
大手不向ひ  
義秀方  
△義秀方  
大



景直と打殺し夫より  
 南門不押寄せ  
 義秀  
 勇力と  
 大盤石と扉  
 不投付けれ  
 関貫も折  
 んとせ

朝比奈

○義秀終ふ門とが倒し  
 ければそれふらして死せし  
 りの敷たれを寄せて  
 乱入て御所不  
 火とつけられし將  
 軍は法華堂と  
 屋ハ義時  
 と尋  
 逢ふ



守兵  
 大ひは恐れ  
 けとせ

△義時ハ早くも  
 法華堂不至り  
 御家人と下ち  
 して守護さ  
 せしむ義清

朝比奈



一月廿六



跡と追へば武田信光と討んとま  
るふ信光が男小二郎信義今年  
こづら十四歳  
きて敵中ふ  
戦ひあり  
けさど

見よ  
より

朝比奈



馳来り父を  
隔てて打てられ義秀  
その孝心を  
感ず引うえ  
相模郎朝時

北条朝時  
み出合討取  
へ安けれとい  
るづけの妻松  
島の局のこと  
あれは終る見  
遣し朝時の馬を三寸切り

月七

+



破れ和田  
義直も打  
死しけ  
義盛も  
自害す

雷田三郎為之

合戦も詮

あつとて従  
戦場と押通  
敵恐れく近寄  
のあし義秀向  
ふ敵あさゆへ安房の  
國へも渡りて三日返  
留しければも討手の来  
るけしきあつたが大松敷  
彼は打棄り異國は渡り  
彼の地の大王とあり東路  
平の義秀といふ一説あり  
實母巴前

結城七郎朝光

朝比奈

生國木曾へ引籠るともり  
 附傳より朝比奈三郎義  
 秀へ和左門尉義盛  
 の三男みく和田三郎義  
 秀といふ朝比奈の住居  
 の地名あり世に義秀の  
 木曾左馬頭義仲の  
 落胤あり巴御前の  
 子ありといふ巴御前  
 へ粟津ヶ原合戦の  
 もり義仲の別と  
 木曾へ落行途



中和義盛  
 は出合太刀打  
 の上組打となり  
 生捕り  
 義盛助  
 命を乞ひ

月とみ

十二

卓上本



免され後本  
 へ引籠り男子と説  
 是と加三郎義季  
 号此末孫代々水  
 御旗城主の末  
 水首左京

明治十九年五月四日御届  
 御町区五丁目十八番地  
 馬王兼出版人 宮澤金太郎

とあり其男木曾仙太郎  
 の代りく家漸絶中と云

定價金四錢

